



ペースランニング～自分に合った速さで走り続けよう～

〈学校の教育目標〉
 ○よく考える子
 ○力をあわせる子
 ○体をきたえる子

〈児童数〉
 361名
 (家庭数 290)

発行 新潟市立沼垂小学校 広報部
 TEL (247) 5326 FAX (247) 5327

ホームページ <http://www.nuttari.city-niigata.ed.jp/>

学校のページを
 随時更新しています。
 是非ご覧ください。



今月号の内容

- 巻頭言
- 各学年の行事
- かがやき遠足
- 夏休み中の大会結果
- 各種入賞者

自分を見捨てない人

教頭 櫻井朝之

息子の大学進学を機に、神奈川県川崎市に行くことが多くなった。空いた時間に観光でもしようと思えば、観光施設を調べると、「藤子・F・不二雄ミュージアム」が近くにあることが分かった。予約制のため訪れることはできなかったが、子どもの頃よくテレビで見ていた「ドラえもん」を思い出した。明日のテストで0点になるのは、どうしても避けたい。のび太は、タイムマシンで一週間後の出木杉くんの部屋に忍び込む作戦をたてる。返却された百点の解答を写せばいいと考えたのだ。ところが部屋へ行くと、もう一人の自分が現れ、こう説く。「他人の答案を見て百点をとろうなんて。せこいこと考えるなよ。」のび太は言い返す。「出木杉の答案を見るしか、ぼくの生きる道はないんだ。」

こんなふうに乗をしてよい結果を出したいと思つたことは誰にでもあるのではないだろうか。もちろん私も。小学校時代には漢字が、中学校時代には英単語が、高校時代には化学式がと、ドラえもんの道具の「暗記パン」で簡単に覚えられたらなあと思つたものである。

しかし、身近にドラえもんの道具はない。目の前の課題を解決するには、周囲の人と協働しながら、自分なりに工夫し、乗り越えるしかない。私の場

合、小学校時代に友人の勉強の仕方を参考に、朝型に切り替えて勉強すること、苦手を漢字を克服していた。身近にドラえもんはいないが、自分なりの方法で頑張っている仲間がいる。今も職員室で困ったと声を出せば、近くにいる職員が駆け寄り、解決のヒントをくれる。もちろん、その逆も然りである。これからの時代は、多様な他者を尊重し、手を取り合つて目の前の課題を解決することが大切である。

「ドラえもん」のその後はというと、結局、のび太は「やれるところまでやるしかない」と思い直す。そこでドラえもんが取り出した道具は「時門（じもん）」。水門のように時の流れをゆっくりにする。徹夜で勉強してテストは六十五点。「自分の力でここまでやれた」とのび太は泣いた。

ドラえもんの作者である藤子・F・不二雄さんは、挫折しても明るく夢を見続ける、大事なものは「自分を見捨てないことだ」と訴える。ドラえもんの別の話の場面。春風に吹かれて飛んで行くタンポポの綿毛に、のび太は「どこへ行くつもり？」と尋ねる。「わからぬ…。だけどきつと、どこかできいな花を咲かせるよ」と綿毛は答えた。のび太のように何度もつまづきながらも、決して人生を諦めない、そんな生き方がこれからも大事になると思う。